

## マラウイ便り -Vol. 2-

ムリバンジー！！（こんにちは！）

アフリカって、年中暑いと思っていました。7月中旬現在、厚手の毛布が手放せない日々が続いております。ここマラウイでは、6月～7月のこれから乾季に向かう季節が最も寒い時期とされています。日本は梅雨も明け、本格的に暑さが増している頃でしょうか。

早いもので、マラウイに来て半年が経ちました。生活に慣れはじめ、少しずつ活動も本格的になってきた今日この頃の様子をお伝えしたいと思いますので、しばしお付き合いください。

### マラウイの交通事情

マラウイでの生活にもようやく慣れてきました。頻繁に起こる停電・断水にも動じなくなり、食事は米ではなくマラウイの主食シマ（トウモロコシの粉を練ったもの）を食べないと物足りないと感じられるようになってきました。しかし、どうしても慣れないのが長距離移動。

私の住んでいる町は、首都から約 250km 離れたところに位置し、移動の際はバスを利用します。バスといっても3列シートの商用車が一般的で、1シート3人乗りのところを4人も5人も詰めて、足置き場にはトウモロコシの入った大きな袋やら、生きたニワトリやらで溢れ返っており、車中は常にカオス状態。加えて整備不良の車と十分に舗装



マラウイのメインロード。

されていない道路を4、5時間かけて移動するので目的地に着いた時にはいつもヘトヘトになっています。バスの出発時間は決まっておらず、車が乗客でいっぱいになったら出発。そのため、出発までに1時間、2時間待つことも多く、長い時には5時間待ったこともあります。

日本では最近、新幹線が停電で5時間止まったというニュースがあったようですが、それが大きなニュースになること自体、日本の交通機関のレベルの高さを感じさせられます。

そんなマラウイの交通事情であるが故、必然的に交通事故も増えてしまいます。マラウイ政府もこの現状には頭を悩ませており、最近では、違反車の取り締まりが強化されました。皆がしっかりと交通ルールを守り、起きてはならない



いつもの車内。他の乗客の膝の上に座っている人も・・・

交通事故が起こらないことが期待されています。

先日バスに乗った時のこと、いつものようにバスに乗り込み出発を待っていると、1時間半も経たないうちに発車してくれました。しかも1シート3人掛けの席に、きっちり3人だけ座った状態で足を置くスペースも十分にあります。いつも騒がしいニワトリの鳴き声も聞こえません。安全運転、途中のバス停で荷物の積み下ろしに時間を取られることもなく、快適に目的地に着くことができました。しかし、なぜかバスを降りたときにはどこか物足りない気持ちになっている自分が。1時間で出発したバスに「速い！」と歓喜し、スペースのない中、隣客と肩の位置を争うこともなく、ニワトリの大合唱がなくなったことにほんの少しの寂しさを感じたのは、気づかないうちにマラウイの長距離移動に慣れてきていたからなのかもしれません。

### マラウイのマラソン大会に参加！

マラウイには、年に一度マラウイで最も高い山ムランジェ山(標高3000m)で行われるマラソン大会があります。大会の名称は「ムランジェポーターズレース」。標高800m地点から2200m地点まで駆け上り、下りてくる総距離22kmの過酷なレースです。2017年7月8日、このポーターズレースに参加してきました。

マラウイ人はよく、「マラウイらしさ」を「This is Malawi」という言葉で表現します。このマラウイらしさ、「This is Malawi」を多く感じることでできた経験だったので紹介したいと思います。

スタート時間は事前情報によると朝6時。



ここを走ります。1位のゴールタイムは2時間半！



こんなコースを走ります。

大会前日、一緒に出場する日本人メンバーと山の麓のロッジに宿泊し、当日の朝にスタート地点へ移動。6時前にはスタートできる状態を整えていったのですが、ここは時間におおらかなマラウイ、6時にスタートすることは無く、その時はまだスタートラインや受付会場のセッティングも終わっていない段階でした。多少の遅れは想定していたので特に困惑することもなく、実際のスタート時間が何時になるか係員に聞くと、7時30分とのこと。おそらくこの時間からさらに遅れるだろうと思っていました。この考えが甘かった。

スタート予定時刻40分前の6時50分、入念に準備運動を行い、あとはトイレに行くだけ。久しぶりのマラソンに心地よい緊張を感じながら用を足していると、何やらスタ

ート付近からアナウンスが聞こえてくる。「テン、ナイン、エイト、セブン」。時刻は 7 時ちょうど。スタート前に催し物でもやるのかなあと呑気なことを考えていると、

「スリー、ツー、ワン・・・ゴーーー！！」という掛け声と共に一斉に大勢の人が駆け出したであ



レース直前。まさかこの 5 分後にスタートしているとは……。

ろう音が耳に入ってきました。慌てて外に飛び出してみると、案の定マラソンスタートの合図でした。This is Malawi。甘かった。マラウイの時間は、遅れるだけじゃない。時間が正確に決まっていなかった。スタートラインに十分人が集まったから、スタートさせてしまおうという感じだったのか。スタートからこのレースの厳しさを感じさせられました。

遅れること 10 分、何とかスタート。序盤はしばらく登りが続きます。標高 800m から 2200m まで登るのですが、最初は緩やかな獣道で、中盤からは岩場が続きます。走るというよりはよじ登るといった感じ。大会に挑むにあたって、甘かったのは時間管理だけでなく、本番までのトレーニングも

でした。準備不足がたたってこの登りだけで足はガクガク。それでも 2 時間ほどかけて何とか頂上。この登り切った先から見下ろす景色が絶景で、一瞬で疲れが吹き飛びました。

しかしそれも一瞬の出来事、再び険しい下りが始まります。下りは剣山のように続く岩場をひたすら飛び移りながら降りていきます。前半の急激な坂を登ってきたことで、足はかなりの疲労、うまく踏ん張ることができない中、震える足を酷使し、ほぼ滑り落ちるような格好で何とか下りきりました。下りにかかった時間は 3 時間、体力の限界から何度も諦めたくなりましたが、そこは山の中、とにかく進むことしかできず必死に走って（ほぼ歩き）合計 5 時間でゴール。途中、コースを示す案内表示が間違っていたり、給水場はあるのに肝心の水がなかったりと、

これも「This is Malawi」か。最終的には総距離 22km ではなく 27km だったとか。



頂上からの景色はまさに絶景！！

それでも一番マラウイらしさを感じられたのは、頂上から見たあの美しい景色。そして一緒に走りながら励ましの言葉をかけてくれたマラウイ人の優しさ。たくさんの「This is Malawi」を感じられた素敵な経験になりました。

走り終わった直後は疲れ過ぎて来年はもう絶対出ない！と思っていましたが、ピョンピョン岩場を渡っていくスカート姿のマラウイ人のお母さんにいとも簡単に抜かれてしまったことが悔やまれるので、また来年リベンジしたいと思います。



### マラウイで日本文化紹介

町を歩いているとよく子どもから「チャイナ(中国人)！」と声をかけられます。カンフー映画の影響からか、「アジア人=中国人」と認識している子どもが多いようで「ジャパニーズだよ。」と伝えても「ジャパニーズ？なにそれ？」と首をかしげる子も少なくありません。そんな彼らに、異国の文化に触れ海外に興味を持ってもらいたい、ついでに日本について知ってもらいたいと思い、配属先の同僚に相談したところ、小学校で日本紹介をする機会を頂きました。5年生から8年生（日本では小学校5年生から中学校2年生）の生徒20人に対して、マラウイと日本の食文化の違いや言語の違い、マラウイにある身近な日本のモノ等について話しをしました。

中でも関心を持っていてくれたのが季節の話。冬景色の紹介にスキーの動画を見せると、初めて見る雪に大興奮。「足に付けているエンジンは、どれくらいスピードが出るの？」という質問に「エンジンは付いていないよ。滑っているんだよ。速い時は時速100kmを超えることもあるんだって！」と答える

と、にわかには信じられないといった表情を浮かべる子どもたち。

今回の日本文化紹介で彼らが異文化にどれほど興味を持ってくれたのかはわかりませんが、日本の国旗も見たことのなかった子どもが「日本に行ってみたい。」「もっと日本について教えてほしい。」と言ってくれたことが何よりやってよかったと思えたことです。ちなみに「カンフー」と「サムライ」の違いを説明した時に受けた「カンフーとサムライ、どっちが強いのか？」という質問の回答は、次回までの宿題とさせて頂きました。。



パソコンに興味津々の子供たち。

## マラウイでの活動

最後にもう少しだけ活動について。メインで行っている活動は村のビジネスグループのサポートです。最近、新たに米の生産販売を行おうとひとつのグループが立ち上がりました。生産して販売するまでの活動計画の作成、必要経費の試算・調達や運営管理などを同僚やグループメンバーの村人たちと一緒に考えて、毎日、試行錯誤しています。日本と違って物事がなかなか前に進まないマラウイ。予定通りの時間で会議が始まることは稀だし、前々から約束していた予定がキャンセルされることも少なくありません。イライラしたり、落ち込んだりすることもあります。それ以上に彼らから学ぶことが多く、日々勉強させてもらいながら楽しんで活動に取り組んでいます。

まだまだ序盤ですが、残された時間は1年半しかないので悔いの残らぬよう一日一日を大切にしていきたいと思います。それでは今回はこのあたりで。ティオナナ～！！（さようなら！！）